

読者の皆さんから届いたお便りなどを紹介します



イチオシ朝ごはんを配膳し仕上げる

**山** 手小学校の子どもたちから募集した「わが家のイチオシ朝ごはん」15作品を12月12日の審査会の当日、私たちは山手公民館で実際に調理してみました。

応募作品にはパンのメニューも多く、また、まぜごはんをはじめ、朝の定番の卵料理、野菜を多く使ったもので、ボリュームや色どりの組み合わせなど工夫のあとが感じられました。調理した山手地区の栄養委員さんから、「おいしそう」などの声が

あがってました。

今回の募集は、一昨年に私たちが山手地区で行ったアンケート調査から見えてきた「朝食を食べていない子どもは少ないもの、組み合わせに工夫が必要」という課題に取り組んだものです。そこで、昨年10月、各家庭で子どもといっしょに朝食について考えてもらうと、豪華なものだけでなく、忙しい朝に手早く簡単にできて、おいしい朝ごはんを募集しました。

入賞作品は、3月15日の「山手地区健康福祉フェア」で表彰する予定です。また、15作品のなかの一品がアレンジされ、2月5日の学校給食に登場します。楽しみにしててください。

一日の活動の源として、朝ごはんは大切です。子どもに限らず、大人の皆さんも、毎朝



そば打ち体験をする子ども

しっかり食べましょう。

(山手地区食育をすすめる会会長 高谷弘子さん・宿)

**毎** 年恒例のそばまつりを12月14日、水内コミュニティ広場で開きました。

宮農組合で栽培したソバからとれたそば粉を使って、約800食を用意。打ち立てのそばを味わっていただきました。

そば打ち体験・実演やイノシシ汁のサービス、竹細工コーナーなども人気で、年末の休日をも多くの皆さんとにぎやかに楽しく過ごせることができました。

(東守さん・原)

↓点線に沿って切り取ってください。(官製ハガキでも可)

**市 民 憲 章**

わたくしたちは、美しい自然と豊かな吉備文化にはぐくまれている総社市民です。このことに誇りと責任をもち明るく豊かなまちをつくることにつとめます。

1 郷土を大切に  
美しい環境をまもりましょう。

1 生涯学び  
明るい家庭をぎずきましよう。

1 たがいに助け合い  
あたたかいまちをつくりましよう。

- ◎市の花/れんげ
- ◎市の木/もみじ
- ◎市の鳥/タンチョウ

インタビュー  
**Interview**

輝いている人

百年経っても色あせない時代を超えた曲を作りたい



黄昏のフォーキー・ブラジリアンとして活動中のシンガーソングライター

日野良一さん(駅前二丁目出身)

すがすがしいギターと丸みのある歌声で、サンバ・ボサノバなどのブラジル音楽に影響を受けた弾き語りスタイルで活動を続けているのがシンガーソングライターの日野良一さんだ。

ギターを習い始めたのは、8歳のとき。ピアノの講師をしていた母親の勧めで、何か演奏できる楽器をと、近所にできたギター教室へ通うようになった。習い事の一つとして高校まで続けたが、父親と同じ建築家になることを夢見て福岡の大学へ進学した。

ブラジル音楽に目ざめたのは、大学2年のとき。初めて聴いたボサノバに感動し、魅せられ、自らもボサノバをギターで弾くようになった。彼を良く知る知人からの紹介で、ブラジル料理店のステージに立ったのがきっかけで、福岡を中心

にライブ活動を行うようになった。「音楽のすばらしさを体感していくなか、建築家から音楽家への思いが大きく膨らんでいった」と、当時のことを懐かしそうに振り返る。

東京に拠点を移し4年、各地でライブツアーを精力的に展開してきた。昨年は、CDアルバム2枚をリリースする一方、キマグレンのサポートギターとしてライブやレコーディングに参加し、紅白歌合戦にも出場した。「忙しい一年だったが、とても刺激的で充実していた」と満足そうに話す。

曲づくりについて尋ねると、「音楽の原点にはいつも古里の情景がある。等身大の日常をテーマに、百年経っても色あせない、時代を超えた曲を作りたい」と曲に込める熱い思いを話してくれた。